

在宅の医療を支援 敬愛会 沖縄市に施設着工



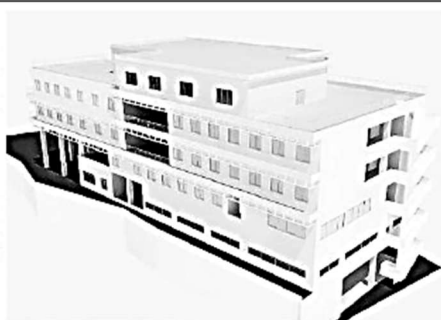
安全祈願祭でくわ入れする敬愛会の宮里善次理事長(中央)ら＝10日、沖縄市登川

【沖縄】中頭病院などを運営する社会医療法人敬愛会(宮里善次理事長)は10日、沖縄市登川に「なかがみ地域包括センター」を着工した。在宅療養支援診療所などの機能をもつ「地域包括ケアシステム」を構築するための有床診療所(19床)は、県内で初めて。2021年8月完成予定。

同会によると県内の在宅医療サービスは特に中部地域で不足している。同センターは高齢社会で多様化する需要に対応し、在宅に特化した機能を集約して、医療から在宅まで切れ目のない態勢構築を目指す。施設は鉄骨造り地上5階地下1階、延べ床面積4666平方メートル。有床診療所と介護付き有料老人ホーム、通所リハビリテーション、訪問看護ステーション、看護小規模多機能型居宅介護(複合型サービス)などの機能を備える。

10日の安全祈願祭で宮里理事長は「急性期から回復

期、在宅までの流れをうまく作り、沖縄のロールモデルを目指す」と述べた。



「なかがみ地域包括センター」の完成予想図(社会医療法人敬愛会提供)